

ただみ・モノとくらしのミュージアム 第5回企画展

なにでできてる？ —素材からみる民具—

壺形土器



テッカワ(手皮)



カマ(釜)



ゲンベイノヒゲキリダイ



ワラグツ(藁沓)



2026
7/18 sat. → 2027
2/14 sun.



ホームページ

ただみ・モノとくらしのミュージアム

〒968-0602 福島県南会津郡只見町大倉字窪田30

TEL.0241-86-2175

E-mail: mono_kurashi_museum@hyper.ocn.ne.jp

〈ご利用案内〉

開館時間 9:30~17:00 (入館は16:30まで)

休館日 月曜日(祝日の場合は翌平日)

年末年始(12月29日~1月3日)

入館無料



ただみ・モノとくらしの
ミュージアム

なにでできてる?—素材からみる民具—

民具は、石・土・金属・ガラス・動植物など、さまざまな素材で作られています。素材を見つめることで、手仕事の様子や技を見ることができ、使い方の工夫や知恵を知ることができます。本展では、“素材”をキーワードに、さまざまな素材で作られた民具を展示します。土器や石器などの考古資料も、人間の手仕事が見られる民具として取り上げます。

只見町で収集した民具は、1万点以上を数えます。そのうちの2333点は国指定重要有形民俗文化財「会津只見の生産用具と仕事着コレクション」です。一方、それ以外の約8000点の「只見町収集民具」には、触れる民具、動かす民具として活用できる民具があります。本展では、会場内で触れることができる民具を多く展示して、数多く収蔵する民具の活用例としていきます。実際に手に取り、素材の手ざわりや重さ、その表情を感じてください。

『「奥会津の道」 街道と鉄道 行き交う人・もの・文化』（奥会津7町村文化施設間連携企画展）を同時開催します。“道”をキーワードに民具や考古資料を展示します。あわせてお楽しみください。

土



壺形土器

弥生時代中期の土器。窪田遺跡（只見町大倉）で発掘された。

鉄



毛皮



テッカワ（手皮）
狩猟用の手袋。ニホンカモシカの毛皮でできている。

カマ（釜）

お湯を沸かすときに使う。ユッカマ（湯釜）やテドリ（手振り）とも呼ばれる。寄贈者はカマやオオッカマ（大釜）と呼んだ。戦国時代に、要害山（只見町只見）で戦闘があった際、このカマでお湯を沸かし、山頂から投げて応戦したという言い伝えがある。

木



ゲンベヒゲキリダイ

ゲンベヒ（冬の履き物）
を作る時に使用する。

わら
藁



ワラグツ（藁沓）

冬の履き物で、結婚式
や葬式などの儀式で使わ
れる。



公共交通機関でのアクセス

- 会津鉄道・会津田島駅から
定期路線ワゴン「自然首都・只見号」（11:05、15:00発）
「ただみ・モノとくらしのミュージアム前」下車（乗車60分）
 - JR只見線・只見駅から
定期路線ワゴン「自然首都・只見号」（9:10、13:10発）
「ただみ・モノとくらしのミュージアム前」下車（乗車20分）
- ※運行時刻は2026年6月現在の情報です。最新の時刻表をご確認ください。

お車でアクセス

- 東北自動車道・白河ICから88km、約1時間45分
 - 東北自動車道・西那須野塩原ICから92km、約1時間50分
 - 関越自動車道・魚沼ICから75km、約1時間50分（冬期間通行止）
 - 磐越自動車道・会津坂下ICから81km、約1時間45分
- ※駐車場 20台／大型バス等は要事前予約